

ネギの種まき、苗作り



晩秋から冬期にかけて収穫し、鍋物や焼きなど用途の広い根深ネギや葉ネギは、お彼岸のころが露地の苗圃（びょうほ）での種まきの適期です。

畑は半月以上前に、元肥として完熟堆肥（たいひ）と油かす、化成肥料（酸性土壌なら事前に石灰も）を全面にばらまいて15〜20cmの深さによく耕しておきます。

ネギ苗作りで大切なことは、（1）そろいよく発芽させること（2）除草を怠らないこと（3）間引いて苗を適正な間隔にすること（4）肥切れさせないこと（5）病害虫防除を怠らないことです。

そろいよく発芽させるには、まず、くわを何回も前後させて底面が均平になるよう、まき溝を入念に作りまします。種は厚薄なく平らにまき、覆土（1〜1.5cm厚）したら、くわの背で軽く鎮圧します。その上を2〜3cmの長さに切断したわらで覆い、防寒と降雨から幼苗を保護します。もみ殻薫炭も良い材料です。

ネギの初期生育は遅いのですが、雑草は急にはびこるので、除草は遅れないよう徹底しましょう。

草丈6〜7cmのころから、伸びるにつれて2〜3回間引きし、最終株間を3cm内外にします。その間、3回ほど条間に化成肥料、有機配合肥料などを追肥し、軽く中耕しておきます。

病害虫、特に赤さび病、スリップス、ハモグリバエなどが発生しやすいので、早期発見に努め、薬剤散布し、苗床から本圃にできるだけ持ち込まないように心掛けます。

一方、セル成型育苗は、間隔がきちんとしているので、苗はよくそろいます。さらに植えつけの際の断根がないので、活着が良いという利点があります。

成功のポイントは、（1）セル育苗用として配合された専用の土を用いること（2）かん水を上手に（晴天なら1日に2〜3回、周辺部を多めに）行うこと（3）1穴に3本立てるよう間引くこと（4）植えつけ前1〜2時間にたっぷりかん水して苗を抜きやすくしておくこと、などです。

図は通常のセルトレイを用いた方法ですが、ネギ専用の定植機を使用するペーパーポット方式が専業農家

では多く用いられています。経済栽培の場合には、JAでこの方法の指導を受けられるのが得策です。（16W×59L）

板木技術士事務所 ● 板木利隆

